

特集

三島市・ニュープリマス市 姉妹都市提携30周年



 **1991(平成3)年4月29日 三島**

8年前の1983年に、中学校の英語の教科書に載った富士山そっくりのタラナキ山を見つけた主婦4人がニュープリマス市長に手紙を送ったことから始まった両市の市民交流が、三島市制50周年という節目にあたって、姉妹都市提携という形で実を結び、三島市民文化会館で調印式が挙行されました。ロドニ・ゲイツ駐日ニュージーランド大使ご臨席のもと、奥田吉郎市長とデイビッド・リーン市長が提携書に署名しました。三島市にとっては、1957年に提携したアメリカ・カリフォルニア州パサディナ市に続く2番目の姉妹都市となりました。



調印する奥田吉郎、デイビッド・リーン両市長



1991(平成3)年5月27日 ニュープリマス



ニュープリマスでの調印式の様子

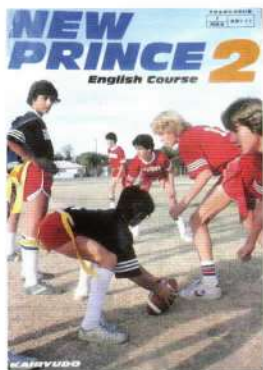
三島市での調印式に引き続き、ニュープリマス市においても同市内のタラナキ州劇場で調印式が行われました。三島市からの親善訪問団29名が見守る中、デイビッド・リーン市長と奥田吉郎市長が盟約書に署名、両市の文化、教育、スポーツ面で交流を深めることを誓い合いました。



きっかけは…



MIRA 元会長の小松幸子さんが、近所の友人から頼まれて娘さんの英語の勉強のお手伝いをした際、その教科書に出ていた富士山によく似たエグモント山（現在は「タラナキ山」の呼称）に魅せられて、友人の3人の主婦と連名で、三島市からニュープリマス市に初めて手紙を出したのが1983年のことです。このことがきっかけとなって、4人はそれぞれ文通を続け、8年後の1991年、三島市制50周年の年に、両市の姉妹都市提携が実現しました。最初の手紙とそれに対するデイビッド・リーン市長（当時）からの返信内容をご紹介します。（資料提供 小松幸子さん）



英語の教科書表紙
開隆堂出版株式会社
(NEW PRINCE English Course 2)



3-1 エグモント山と羊の群れ

教科書のタラナキ山(エグモント山)

ニュープリマスに送った最初の手紙（抜粋）

ニュージーランド
タラナキ州ニュープリマス市
ニュープリマス市役所内
ニュープリマス市長様

全く見ず知らずの者からこの手紙を受け取られて、きっと驚かれています。私たちは、世界中のどこの市長さんも毎日お忙しいということを、よく知っています。でも、どうぞしばらく、私たちのニュージーランドへの初めての手紙をお読みください。

私たちは、全員主婦で、日本の静岡県三島市に住んでいます。三島市をご存じでしょうか。多分、何もご存じないと思います。（中略）

ところで、ある日私たちは、たまたま日本の中学校の英語の教科書を読む機

会を得ました。第4課の題名は、「ニュージーランド」で、5つの部分からなっており、それぞれに、クック山、キウイ、クライストチャーチ、マオリの木彫、牧場の羊などの写真が付いていました。他のグラビアページには、「美しいエグモント山と多くの羊」「12月のクライストチャーチ」がカラーで載っていました。（中略）私たちはエグモント山に大変興味を持ちました。なぜかと申しますと、それは富士山ととてもよく似ているからです。また、私たちの市は、この富士山の麓にあります。（中略）

私たちは、何とかしてあなたの国にいく人かの友だちを持ちたいと思いました。そこで何度も検討して、ニュープリマス市を選びました。ニュープリマス市と三島市は、それぞれの国の最も美しい山の近くに 있습니다。（中略）私

たちは、広い緑の牧場や、いろいろな種類の草花や木々におおわれた山々を思い浮かべています。多分、新鮮で清々しい空気が満ち溢れているあなたの国では、人々は羊や牛たちと幸せに暮らしていらっしゃることでしょ。（中略）

私たちは、三島市の郊外に住んでいます。茶道を習ったり、主婦仲間で地域新聞も発行しています。時々パーティーを開いたり、手作り料理を持ち寄ったり、他にもいろいろと学ぶ機会を持つようにしています。つまり、私たちは楽しいことが大好きで、多くを知りたいし、また、多くの方々とお友だちになりたいと思っています。（以下略）

1983年9月20日
三島市 小松幸子 平井許子
山田功江 神山美紗子

ニュープリマス市長からの返信

親愛なる小松夫人へ
ニュープリマス市
市長室より
1983年9月27日

貴女からの9月20日付のお便り、楽しく読ませていただきました。ニュージーランドについても、よく勉強され

ていますね。特にニュープリマスへの興味を多く示してくださり、非常に嬉しく思います。是非、私たちの街をお訪ねください。同封の資料に、貴女からの質問に対する多くの答えが入っています。加えて、広報室のデイビッド・ウィックス氏にも、ニュープリマス日本協会へ貴女からの手紙を送っておくよ

う伝えました。彼らからも連絡が行くかもしれません。

お手紙、本当にありがとう。ニュープリマス市民も、貴女方との交流を楽しみに思うことでしょう。

ニュープリマス市長
デイビッド・リーン

30年の交流を振り返る①…公式訪問団



1993.5月、クレア・スチュアート市長
訪問団来島(5名)箱根の里で記念植樹



1994.4月、姉妹都市提携3周年記念訪問団派遣
(団長:石井茂市長 22名)



1995.8月、市民訪問団派遣(団長:石
村郁夫都市交流委員長 28名)



1996.5月、姉妹都市提携5周
年記念訪問団来島(団長:クレ
ア・スチュアート市長 10名)



1997.3月、文化使節団派遣(団長:
三島市民文化会議杉山事務局長
53名)タラナキ文化祭に参加



1999.5月、公式訪問団来島
(団長:クレア・スチュアート市
長 9名)



1999.10月、公式訪問団
派遣(団長:小池政臣市長
64名)



2001.5月、姉妹都市大会及び提携
10周年記念式典公式訪問団派遣(団
長:志村肇市議会議長 22名)友好
の鳥居「三島ゲート」設置



2002.4月、公式訪問団来島(団長:ピー
ター・テンネント市長 12名)三島駅で
記念植樹



2005.5月、公式訪問団来島(団長:ピーター・テンネ
ント市長 27名)



2011.10~11月、姉妹都市提携20周年記念公式
訪問団派遣(団長:豊岡武士市長 21名) 姉妹都
市交流功労者に感謝状と記念品を贈呈



2012.11月、公式訪問団来島(団長:ハリー・ダインハーヴン市長 7名)楽寿園に記念
の時計台を設置



30年の交流を振り返る②…青少年の交流

★中学生等派遣研修

三島市とニュープリマス市とが姉妹都市提携をした翌年の1992年3月、市内公立中学生6名と指導員2名が初めてニュープリマスを訪問しました。以来、2019年まで毎年3月、中学生を主体に研修派遣を行いました。参加者は28回トータルで277名（指導員除く）にのぼっています。2020年、2021年は、新型コロナウイルス感染症蔓延のため、中止となりました。当初は学校代表の中学生のみでしたが、

1996年からは、英語スピーチコンテストの中学生の部、高校・大学・一般の部の優勝者も参加しています。また、2001年から2007年には、小学生も参加しました。

参加者は、ホームステイをしながら学校の授業への参加や学生との交流、自然や動物、歴史や文化にふれ、日本では味わえない貴重な体験をします。参加者の中から将来、国際人として活躍してくれる方が出ることを期待します。



★ニュープリマス学生の来島

ニュープリマスからも、毎年のように学生が来島しています。(表を参照)彼らも三島の中学校・高校・日本大学を訪れ、授業に参加したり給食をとみにしたりして、交流を図っています。ニュープリマスの若い人たちに、日本の歴史や文化を知ってもらう機会となれば素晴らしいと思います。



ニュープリマス市 学生の研修受け入れ

1992	5月	ニュープリマス・ボーイズ・ハイスクール	5名
	5月	イングルウッド・ハイスクール	16名
1993	5月	イングルウッド・ハイスクール	7名
	5月	ニュープリマス・ボーイズ・ハイスクール、 ワイタラ・ハイスクール	20名
1994	5月	ニュープリマス・ボーイズ・ハイスクール	6名
	8月	イングルウッド、ハウエラ、 ストラット・フォード・ハイスクール合同	17名
1995	8月	スポッツウッド・カレッジ	19名
1996	12月	ニュープリマス・ボーイズ・ハイスクール	7名
1998	4月	スポッツウッド・カレッジ	16名
1999	4月	ニュープリマス・ボーイズ・ハイスクール、 イングルウッド・ハイスクール	13名
2001	4月	スポッツウッド・カレッジ	8名
2004	4月	フランシス・ダグラス・メモリアル・カレッジ	13名
	4月	スポッツウッド・カレッジ	15名
2007	4月	スポッツウッド・カレッジ来島	18名
2010	4月	スポッツウッド・カレッジ来島	14名
2012	4月	フランシス・ダグラス・メモリアル・カレッジ	13名
2013	4月	スポッツウッド・カレッジ	11名
2014	4月	フランシス・ダグラス・メモリアル・カレッジ	13名
2016	4月	スポッツウッド・カレッジ	17名
2018	4月	スポッツウッド・カレッジ	14名
2019	12月	ワイタラ・ハイスクール及び家族など	27名

30年の交流を振り返る③…功労者

姉妹都市提携20周年の2011年、豊岡武士市長を団長とする公式訪問団がニュープリマスを訪れました。その際、姉妹都市交流に尽力された方々に、三島市から感謝状と記念品が贈呈されました。表彰者7組をあらためてご紹介します。

★姉妹都市提携20周年記念表彰者(2011年)

ピーター・テンネント氏	元ニュープリマス市長。公私にわたり三島に何度も来訪
ロス/シェリル・ドムニー夫妻	英語教師(ALT)として約7年間三島市の小・中学校で教える
ブルース/リン・マレー夫妻	研修生引率者や教師交換事業で派遣された教師等の多くのホストファミリー
玲子・スミザース氏	スボツウッド校の日本語教師。来島の際は生徒を引率。また三島市研修生等の受入、通訳等を行う
ラッセル・クリアウォーター氏	ニュージーランド-日本友好協会タラナキ支部会長等歴任姉妹都市交流に尽力 日本政府より勲5等瑞宝章を授与されている
ケン/ヴィヴィアン・ブラウン夫妻	ニュージーランド-日本友好協会タラナキ支部役員等歴任。姉妹都市交流に尽力
ブライアン/バム・キング夫妻	ニュージーランド-日本友好協会タラナキ支部役員等歴任。姉妹都市交流に尽力



ピーター・テンネント元市長(右)
左からデイビッド・リー元市長、
クリア・スチュアート元市長、小松幸子MIRA元会長



ロス/シェリル・ドムニー夫妻



ブルース/リン・マレー夫妻



玲子・スミザース氏



ラッセル・クリアウォーター氏(左)



ケン/ヴィヴィアン・ブラウン夫妻



ブライアン/バム・キング夫妻

おもしろ豆知識 バレット3兄弟

2019年に日本でラグビーのワールドカップが開催されました。ニュージーランドの代表チーム“オールブラックス”でボーデン、スコット、ジョーディのバレット3兄弟がそろって活躍したことは記憶に新しいところです。一番上のボーデンは2021年に、日本のトップリーグ、サントリーサンゴリアスでプレーしたことも有名です。実は、このバレット3兄弟は、ニュープリマスの出身なのです。しかも、8人きょうだい。ボーデンの上に長兄ケイン、弟がもうひとり(ブレイク)、妹が3人(ジェナ、ザラ、エラ)という大家族です。長兄ケインはもとプロラグビー選手ですし、父ケビンも、今は乳牛を飼育する酪農家ですが、タラナキのハリケーンズというチームのプロラグビー選手だったそうです。さらに驚きは、ボーデンの誕生日です。1991年5月27日。まさにこの日、三島とニュープリマスの姉妹都市提携の調印式がニュープリマスで行われていたのです。



こんな交流も…

ミス・タラナキ来島

2004年8月、ミス・タラナキのソフィー・ステーブンスさんが三島青年会議所の招きにより、夏祭りの音楽パレードに参加するため来島しました。ソフィーさんは心理学を学ぶ大学生で、三島ではホームステイをしながら、市内の散策や近隣の観光地を訪れ、1週間の三島生活をエンジョイしました。



教師交換派遣事業

2005年に公式訪問団が来島した際、ピーター・テンネント市長（当時）から提案があり、翌2006年から教師の交換派遣事業が始まりました。2006年はヴィッキー・リッチー先生が三島を訪れ、中郷西中、北中をはじめ近隣の小学校、幼稚園などで授業に参加しました。2007年には向山小の中村龍先生がはじめてニュープリマスを訪問。以降、1年おきに派遣・受入れが行われています。日本とニュージーランドの教育事情の違いや、子どもたちとのふれあい方など、教師自身が直接体験することでお互いに勉強になることが多く、有意義な事業となっています。

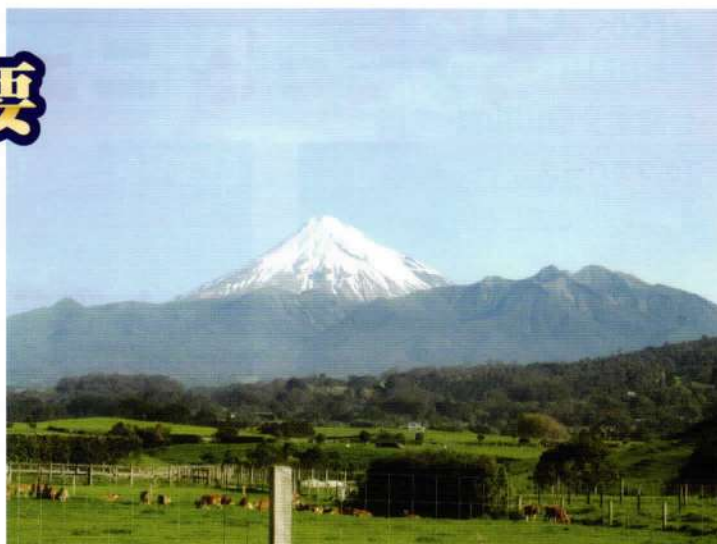


年	派遣	受入れ
2006	—	ヴィッキー・リッチー(イングルウッド)
2007	中村龍(向山小)	ジェームズ・ローセイ(スポッツウッド)
2009	星野有紀(錦田中)	ウォーリック・ディビッド・フォイ(イングルウッド)
2011	竹下雅美(徳倉小)	ロバート・ヤング(ニュープリマス・ガールズ)
2013	稲葉美香(錦田中)	ロス・ホワース(セクレッドハート・ガールズ)
2015	鈴木舞香(山田小)	パット・スワンソン(セイント・ピウス・X)
2017	小村彩香(北小)	エイブリン・ウィルス(ハイランズ・インターメディエイト)
2019	宇佐美紗代(錦田中)	キャサリン・フーパー(ハイランズ・インターメディエイト)

(敬称略)

ニュープリマスの概要

ニュープリマス市は、ニュージーランド北島の西海岸に位置し、東西 90 キロメートル、南北 65 キロメートル、面積は 2,205 平方キロメートル（三島市の約 35 倍）です。また、タラナキ州（region）の州都であり、市の南西部には、富士山とよく似た標高 2,518 メートルのタラナキ山がそびえています。気候は、年間を通じて温暖で、真夏の日中でも 25℃ を超えることはなく、冬でも 10℃ 以下の日が続くということも、ほとんどありません。年平均降雨量は 1,500 ～ 1,600 ミリ程度です。ニュープリマス



地区の人口はおよそ 80,000 人。主にヨーロッパ系白人ですが、マオリ族が 14,000 人程住んでいます。

ニュープリマス市の産業は、豊かな土壌を生かした酪農、畜産、花、観葉植物の栽培と、皮なめしや肥料生産を基盤としています。またここで作られた良質のチーズは、海外に輸出されています。その他、石油と天然ガスの油田、ガス工場があり、この国全体にエネルギーを供給しています。石油化学工業は 1865 年に、ニュープリマスのモットウロア平野ではじめて石油が発見されて以来、着実に発展してきました。ニュープリマス市は、ニュージーランドの最大の火力発電所があることでも知られています。

また、伝統校であるボーイズハイスクールやガールズハイスクールをはじめ、フランシス・ダグラス・メモリアル・カレッジ、スポーツウッドカレッジ等の学校があり、教育施設も充実しています。



スポーツウッドカレッジ

今から約千年前、先住民はモアという大きな飛べない鳥を狩猟、衣服をつくるためにアマ（繊維）を収穫する生活をしていました。その後、13 世紀頃に、東ポリネシア人（マオリ族）が海を渡り住み始めました。彼らは、彫刻、織物、音楽、踊りなど、独自の文化と芸術を発展させ、現在もその伝統を守り育てています。その後、ヨーロッパからの捕鯨団が捕鯨基地を設けたのを契機に、1841 年に開拓が始まり、ヨーロッパから移民が移住し始めました。ニュープリマスという名前は、イギリスのプリマス市から多くの移民があったことに由来しています。1948 年に正式に市となり、その後大規模な行政区域変更の結果、ニュープリマス地区（New Plymouth District）となり、現在に至っています。



ニュープリマス地区庁舎



ニュープリマスの市街

ちょこっと ニュープリマス散策



プケクラパーク

中心市街地に位置し、散歩が出来る遊歩道や湖がある美しい植物園で、市民の憩いの場



鳥居ゲート

プケクラパークの中にあり、三島市との姉妹都市提携10周年を記念して作られた



プケ・アリキ博物館

2003年6月にオープンした、博物館と図書館を組み合わせた建物で、ニュープリマスのランドマーク的存在。タラナキ地方の自然や動物、マオリの文化や歴史を紹介している



鏡のようなデザインのレン・ライ・センター。ニュージーランドを代表するキネティックアーティストであり、映画制作者でもあるレン・ライの足跡をたどれる品々が展示されている

ゴベット・プリュスター・アート・ギャラリー/
レン・ライ・センター

レン・ライの作品のひとつで、海岸沿いの遊歩道「ニュー・プリマス・コースタル・ウォークウェイ」に展示されている。ワンド、つまり杖が海にせり出すように立っており、高さ45m



ウインド・ワンド



テ・レワ・レワ・ブリッジ

ワイファカイホ川にかかるニュープリマス市の象徴的な橋。生き物の骨格のようなデザインがユニーク



マンガマホエ湖

ちょっと足を延ばして、ピクニックやハイキングが楽しめるニュープリマス近郊の穴場観光スポット。タラナキ山が美しい。映画「ラストサムライ」のロケ地として使われたともいわれている場所



2011ラグビーワールドカップの会場となったヤロウスタジアム



ニュープリマスでは時間がゆっくり流れます



ニュープリマス空港

2021年3月にリニューアルとなった、新ターミナルビル



ニュープリマス発着はプロペラ機です

◆一緒に国際交流の輪を広げませんか◆

MIRA会員 募集中!

年会費 3000円(個人)1500円(学生)5000円(家族)5000円(団体)

入会申込・問合せ・行事に参加したい・ホストファミリーをやりたいなど、なんでも…

三島市国際交流協会 TEL 055-976-1020

三島市中央町5-5市役所中央町別館2階